

1. 計画のテーマと目指す方向

“エゴ”からエコへ¹

新クリーンセンターが“エコ”でつなぐ周辺まちづくり

クリーンセンター及びその周辺は、武蔵野市の辺境の地に、様々な全市民が利用する施設が集中する。

新クリーンセンターの建設を契機として、新クリーンセンターに付加される全市民向け施設と併せて、“エコロジー”をキーワードとした新たな公共施設のあり方を提案する。

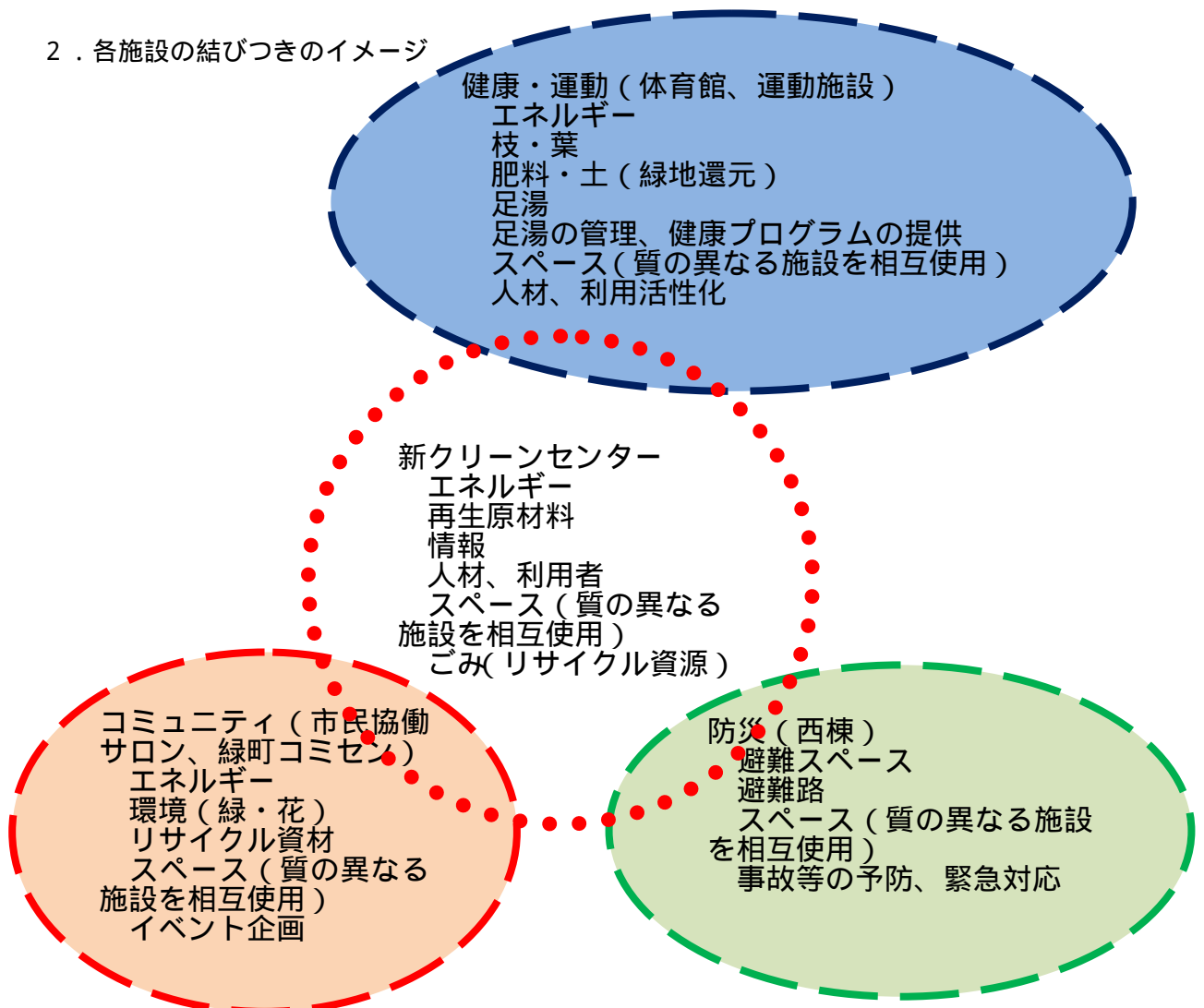
多くの市民が使えるよう魅力的で利便性の高い公共施設エリアを目指す。

既存の環境、資源、施設を効率よく利用し、ムダを少ない都市像を示す。

新たな市民施設の建設により市民の様々な活動に寄与し、新たなライフスタイルや活動の“後押し”をする。

¹ごみ焼却場が迷惑施設と言われていた頃、周辺住民の意見は、「地域エゴ」と言われ兼ねなかった。新クリーンセンターが全市民的な施設として、注目されるために、敢えてこのような表現がよいのではないか。

2. 各施設の結びつきのイメージ



3. 相互利用に関連した具体的アイデア

- ・ 駐車場の相互利用調整により、新たなオープンスペースを生み出す。
 緑町コミセンやスポーツ施設間のオープンスペースを豊かにする。
- ・ 少年野球の決勝を行う野球場としての施設拡充
 観客席をクリーンセンターの北側外壁（屋根）でつくる。
- ・ 新クリーンセンターで生み出したクリーンエネルギーの利用。
 市民が使える電気自動車貸出し（荷物を運ぶ、障がい者、高齢者の送迎など）
- ・ 施設間プログラムの相乗効果により利用を高める。
 新クリーンセンターに、他の施設にはないスペース（工房、屋根のある広場、）
 を用意し、相互の利用を図る。
- ・ まちづくり（都市基盤）の改良
 防災避難路として重要な 41 号線及び防災センターへのルート整備
 （防災上電柱地中化の促進は優先順位が高い）
 施設利用を高めるためのムーバスネットワークの改良

4. リサイクルプラザ（仮称）運営の試案

運営手法	内容	事例
市民サービス	行政サービスとして、税金、ごみの収益、企業の寄付等で運営。	リサイクルハウス（中央区） エコプラザ（港区）
新たな雇用創出による運営	クラフトやアート、障がい者就労の場等、新たな働く場として育てる。	シルバー人材センター
ローカルマネーを使った運営	ごみを中心とした様々な活動を地域通貨で行う。リサイクルの過程で労働の提供、製品の購入など、需給関係をつくる。子どもも参加可能。	けやきコミセンで研究している地域通貨「エト」。イベントで活用